

## P2-005

## 地域活動ホームの看護職による乳幼児期の医療的ケア児と家族への支援活動

清水 裕子<sup>1</sup>、永田 真弓<sup>2</sup>、廣瀬 幸美<sup>3</sup><sup>1</sup>元関東学院大学 看護学部<sup>2</sup>関東学院大学 看護学部<sup>3</sup>三育学院大学 看護学部

## 【背景】

横浜市では、障害福祉の地域拠点として、小児から成人までを対象とした社会福祉法人型地域活動ホーム（地域活動ホーム）を独自に設置している。この地域活動ホームでは、在宅移行した乳幼児期の医療的ケア児の支援調整を相談支援専門員と看護職の協働により実施している。本研究では、地域で生活する乳幼児期の医療的ケア児と家族からの潜在的ニーズや近年の動向にそった看護支援のあり方について検討するために、地域の実情に合った独自の支援を創設している地域活動ホームの看護職が、乳幼児期の医療的ケア児と家族へどのような支援活動をしているかを明らかにすることを目的とする。

## 【方法】

地域活動ホームの施設長に承諾を得て、これまでに乳幼児期の医療的ケア児と家族への支援経験がある看護職へ協力を依頼した。協力を得られた看護職へインタビュー調査を実施し、録音した内容を逐語録データに起こした。看護職による、乳幼児期の医療的ケア児と家族への支援活動に関する記述内容を抽出し、質的・帰納的に分析した。関東学院大学人に関する研究倫理審査委員会の承認を得た。

## 【結果】

3つの地域活動ホームから3名の看護職の協力を得られた。その結果、地域活動ホームの看護職による乳幼児期の医療的ケア児と家族への支援活動は、【支援活動を通じた新たな支援対象の把握】、【医療的ケア児と家族のニーズの変化に合わせた支援の調整】、【子育て期の家族の健康を維持するためのレスパイトケア】、【一時預かりにおける生命の安全を保証するための調整・管理】、【一時預かりにおける支援員との協働による発達を促す活動の提供】、【家族の心理的な安寧のためのかかわり】、【医療的ケア児が地域の中で成長発達していくための関係機関との連携】であった。

## 【考察】

地域活動ホームの看護職による乳幼児期の医療的ケア児と家族への支援活動には、1)潜在的に支援を必要とする乳幼児期の医療的ケア児と家族の把握、2)一時預かりにおける乳幼児期の医療的ケア児への安全管理と発達支援、3)地域の中で成長発達する乳幼児期の医療的ケア児と家族への支援調整、といった特徴がある。これらは、地域で暮らす乳幼児期の医療的ケア児への身体的ケアと発達支援のみならず、家族への心理社会的支援を担っている。また、訪問支援とは異なる、家庭の外といった社会生活の営みを支える地域の資源といえる。

JSPS科研費15K15868により実施した。